

Ⅲ-M. 線維筋痛症[症候群]

1. 病態と治療^{1,2)}

線維筋痛症[症候群] (fibromyalgia syndrome : FMS) は、背部を中心とする慢性的な痛み、不眠、疲労感などを主徴とする疾患概念である。欧米では古くから提唱されている疾患群であるが、本邦では数年前まで医療関係者の中でもあまり知られておらず、疾患概念そのものが不明確な部分も多い。診断基準に関しては、米国リウマチ学会 (ACR) の線維筋痛症診断基準 (1990年発表) を標準としている。それは、i) 「広範囲の痛み」の既往があり、ii) 定義された18カ所の圧痛点のうち、11カ所以上に圧痛を認めることとなっていた。また、2010年にACRから新たな線維筋痛症の診断予備基準が発表された。この新しい診断予備基準では、従来の圧痛点の考えは除外され、過去3カ月間の全身の痛みの部位 (広範囲疼痛指数 : wide-spread pain index : WPI) と3つの症候重症度 (疲労・倦怠感、熟眠感欠如、認知) + 身体徴候 (筋肉痛・頭痛・ドライアイなど) のスコア (symptoms severity score : SS) の合計ポイントで診断することとなっている。日本人では10ポイント (米国では13ポイント) をカットオフとすることが多い。この診断予備基準は、1990年の分類基準に取って代わるものではないことが明記してある。

発症は中年の女性に多い。本邦では、2005年の厚生労働省研究班疫学調査では、人口の1.66% (推定200万人以上) の患者が存在すると推計されている。

臨床症状としては、全身の痛みは必須であり、他には、ほぼ100%の患者に疲労感がみられる。また、睡眠障害や抑うつ症状、朝のこわばりはほとんどの患者にみられる。しびれ・知覚異常感や過敏性腸症候群、微熱、頭痛、目の乾き、口渇感、レイノー (Raynaud) 症候群、不安焦燥感、頻尿、月経困難、耳鳴りなどの多彩な症状を呈する。シェーグレン症候群やレストレスレッグ (ムズムズ脚) 症候群を合併することがある。

病因に関しては、セロトニン欠乏やサブスタンスPの髄液中の増加などの神経ペプチド異常説、視床や尾状核の血流低下説、ノンレム睡眠の障害説などがあるが、現時点では不明である。それらの障害のほか、ストレスなどの心理社会的要因、外傷や手術などの外的要因が発症の誘因になることがあり、複雑な因子が関与している可能性も多い。

2. 神経ブロック治療指針

薬物療法³⁾の他、運動療法や認知行動療法、神経ブロック療法などが試みられている。薬物療法は、非ステロイド性抗炎症薬は効果がみられることは少なく、現在、本邦で線維筋痛症に対して承認が得られているのは、プレガバリン⁴⁾のみである。デュロキセチン⁵⁾、塩酸ミルナシプラン⁶⁾は米国 (FDA) で承認されている。他には、ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液⁷⁾、塩酸アミトリプチリンなどの三環系抗うつ薬などの効果がみられるとの報告⁸⁾がある。

神経ブロック療法としては、星状神経節ブロック⁹⁾、ステロイド薬を併用したトリガーポイント注射、持続硬膜外ブロックなどの報告がある。痛みが広範囲であるため、一つの神経ブロックだけではカバーできないことも多く、薬物療法との併用

が必要となる。

参考文献

- 1) 西岡真樹子, 他 : 線維筋痛症の病態と疾患概念. 日本醫事新報 2004 ; 4177 : 10-14. (G5)
- 2) 浅野斗志男, 他 : 線維筋痛症. 医学のあゆみ 2004 ; 211 : 436-439. (G5)
- 3) Lawson K : Emerging pharmacological therapies for fibromyalgia. Current Opinion in Investigational Drugs 2006 ; 7 : 631-636. (G1)
- 4) Crofford LJ, et al : Pregabalin for the treatment of fibromyalgia syndrome : Results of a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. Arthritis Rheum 2005 ; 52 : 1264-1273. (G1)
- 5) Arnold LM, et al : A double-blind, multicenter trial comparing duloxetine with placebo in the treatment of fibromyalgia patients with or without major depressive disorder. Arthritis Rheum 2004 ; 50 : 2974-2984. (G1)
- 6) Vitton O, et al : A double-blind placebo-controlled trial of milnacipran in the treatment of fibromyalgia. Hum Psychopharmacol 2004 ; 19 : S27-S35. (G1)
- 7) 長岡章平, 他 : 線維筋痛症に対するノイロトロピン®の使用経験. リウマチ 2004 ; 32 : 104-108. (G4)
- 8) O'Malley PG, et al : Treatment of fibromyalgia with antidepressants : A meta-analysis. J Gen Intern Med 2000 ; 15 : 659-666. (G2)
- 9) 伊達 久, 他 : 星状神経節ブロックが有効だった線維筋痛症候群の2症例. 日本ペインクリニック学会誌 2004 ; 11 : 325. (G4)